

岩手県

被災者に寄り添いながら 安全・暮らし・なりわいを再生する

インフラの復旧・復興が順調に進む中、応急仮設住宅にはピーク時の半数の入居者がいまだ残る岩手県。課題と向き合いつつも、全国からの支援によって「元気になった岩手」をどう伝えていくのか、岩手県復興局長の中村一郎さんに伺いました。

復旧・復興の効果が見え始めた

岩手県では、復興の大きな鍵となっている道路・港湾・鉄道などのインフラ整備が急ピッチで進んでいます。特に海沿いを縦貫する三陸沿岸道路、県土を横断する宮古盛岡横断道路、東北横断自動車道釜石秋田線について、中村局長は「もともと計画はありながら一部事業化されていなかったこの三本の道路は、震災後に国から復興のリーディングプロジェクトに位置付けていただき、現在はかつてないスピードで整備されています」と語ります。「災害に強い」という付加価値を持った道路が完成すれば、飛躍的なアクセスの向上が見込まれます。

三陸沿岸道路は仙台〜八戸間の所要時間を3時間近くも短縮し、宮古盛岡横断道路は宮古〜盛岡間を25分短縮、東北横断自動車道釜石秋田線も釜石〜花巻間を20分短縮します。「利便性は大きく向上し、生活・産業・観光面へ

の波及効果は大きい」との期待感も表しました。

リアス海岸の影響で大きな被害を受けた岩手県の港湾においても、復興によって大きな可能性が広がっています。三陸沿岸道路と横断道の結節点という地の利を生かし、宮古港では平成30年に至蘭港とのフェリー就航が予定されています。また釜石港では、横断道の整備により内陸部からの物流がスムーズになり、コンテナ取扱量が急増。道路と港湾の利便性が高まったことで、岩手県を支える物流拠点として期待されます。

鉄道に目を向けると、震災の5日目には一部運行を再開し、復興への先駆けとして住民を大いに力づけ、そしてNHK連続テレビ小説「あまちゃん」で知名度を上げた三陸鉄道が、平成26年4月に全線の運行を再開。津波被害からまだ復旧していないJR山田線の区間を挟み、現在はまだ南北に分断されている状況ですが、山田線は復旧

後にJR東日本から三陸鉄道に運営が移管される予定です。沿岸の南北を一本に結ぶ鉄道として、ますます三陸の象徴となることでしょう。

交流の活気を取り戻すために

「復旧・復興は着実に進んではいますが、被災した方々にとっては『まだこの程度か』というのが現状だと思います。災害公営住宅整備を急ぐなど、被災者に寄り添いながらもつと地元をもり立てていきたい」と中村局長。そこには全国からの支援に感謝するためにも、元気になった岩手を知らせたいという思いもあります。三陸ジオパークや今年開催のいわて国体、平泉と釜石市の橋野鉄鉱山の二つの世界遺産、2019年のラグビーW杯釜石開催など、明るい話題発信にも注力しています。

中村局長は「被災地へは気軽に行きにくいと思う方もいるかもしれませんが、楽しんでいただけると同時に地震や津波に備える必要性も学んでいただ

復興道路などの交通ネットワークの活用に向けて

中長期的な視点や広域的な観点に立ち、新たな三陸地域を築いていくためのアイデアや取り組みなどを、産業・観光・コミュニティの三分野を柱に検討している。中でも急ピッチで準備が進む交通インフラを今後どのように活用していくべきか、岩手のこれからの考える上でも重要な検討事項となっている。

【検討案の一例】

移動と物流の時間短縮効果を産業振興にどう生かすか？

- 新鮮な三陸の水産物を復興道路で消費地に直送
- 効率的な物流網による産業競争力向上を企業にアピール

各地からのアクセス性向上を観光に生かすには？

- 魅力ある広域的な観光ルートの開発

住民の生活圏拡大を、地域の活性化につなげるには？

- 生活サービス施設の共同利用などによる利便性の向上

けます。ぜひ岩手に足を運んでください」と、震災を伝承していく被災地ならではの役割も見据えていました。

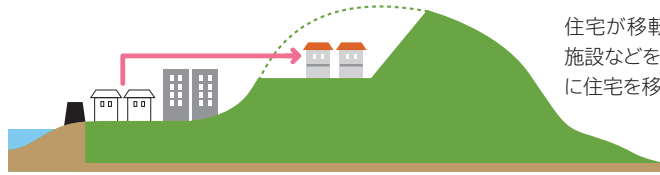


岩手県復興局長
中村一郎さん



田老地区の高台移転

宮古市田老地区は震災で甚大な津波被害を受け、高台への集団移転が進められている。現在は山を削って100万㎡もの土砂を動かした大規模な造成工事が完了し、移転住宅の建設が始まっている。



住宅が移転した低地には商業施設などを中心に整備し、高台に住宅を移転・整備している。

元気で魅力ある岩手を
知ってもらったために
観光や交流にも力を
沿岸地域を中心に大きな被害を受けた岩手県ですが、復興事業は着実に進み、多くの地元行事なども元気な姿を取り戻しています。被災のイメージから「まだなんとなく東北地方への旅を避けている」という人に現在の岩手を知ってもらおうべく、さまざまなPR活動に力を入れています。

- 1 2016 希望郷いわて国体の「応援フォト」。「広げよう 感動。伝えよう 感謝。」のスローガンで、県民・競技関係者・企業・自治体など「オール岩手」で盛り上げている。
- 2 世界遺産登録から5周年を迎える平泉の庭園。国内にとどまらず海外からの集客にも力を入れる。
- 3 三陸ジオパーク*の見どころの一つでNHK「あまちゃん」でも話題になった小袖海岸。
※平成25年9月に日本ジオパークに認定され、エリアは青森県八戸市から宮城県気仙沼市までの沿岸16市町村。南北約200kmにも及び日本一広大なジオパーク。



釜石市の曳き船まつり

毎年秋に行われる「釜石まつり」でのメインイベント。震災で船も神楽の道具も失ったが、地元の伝統を守ろうという強い意志から震災が起きた年の10月に2隻の船で決行。平成27年は13隻まで増加し、従来のにぎわいを取り戻しつつある。(写真提供/釜石市)



三陸鉄道

震災でダメージを受けた山田線は、復旧後にJR東日本から三陸鉄道に運営が移管される予定で、海岸沿いの鉄道は経営が一本化される。地元の愛着も深い鉄道だけに「震災学習列車」「こたつ列車」など鉄道をもり立てるためのさまざまな企画列車が運行されている。

